（裏表紙・表紙と続けたデザイン）

瀬戸市将来計画２０４０（第７次瀬戸市総合計画）は、２０４０年を見据えた瀬戸市の将来像と、その実現に向けたまちづくりの方向性を示す、市政運営の最上位計画です。

本計画は、「基本構想」と「基本計画」により構成します。

基本構想は、市政における最上位の方針として、将来像及び施策の大綱を示すものであり、平成２６年（２０１４年）に制定した瀬戸市基本構想条例に基づき策定します。

資料１

瀬戸市将来計画２０４０
基本構想

（表紙デザイン）

２０４０年。
瀬戸はどんな景色になっているでしょう。

わたしたちは今、大きな転換点に立っています。
人口減少や価値観の多様化、デジタル技術の進展など、
これからの社会は大きく変わっていきます。

だからこそ、目の前の課題だけを見るのではなく、
「２０４０年に実現したい瀬戸のまちの姿」から
今を、そしてこれからを考えることが大切です。

未来は、誰かがつくるものではありません。
瀬戸に関わる一人ひとりの想いと行動が、
瀬戸の未来をつくっていきます。

あなたは、２０４０年の瀬戸にどんな景色を思い描きますか。

（読んだ人に問いを投げかけるイメージ）

混ざって生まれる。
化学変化がめぐるまち

瀬戸の人はたのしむ。まだ見たことのない景色を。
瀬戸の人はおもしろがる。それぞれの思いや違いを。

挑戦する気質、変化を楽しむ心。
新しい技術や仕組み、異なるものを受け入れ、
時代に合わせた価値や可能性を生み出してきた人たち。
そんな歩みを受け継ぎ、わたしたちは次の時代へと挑んでいく。

伝統とテクノロジー、日常とアート、技術と感性、地域と世界、暮らす人とかかわる人、
そして、せとものを生み出した土壌とそこに芽吹く、新しいアイデアの種。

さまざまな違いが出会い、混ざり合い、新たな価値を生み出す。
生まれた価値が次の出会いや挑戦を呼び、そこからまた新しい価値が生まれていく。

思い切った挑戦でもいい、小さなきっかけでもいい。
声をかける、まちを気にかける、混ざり合う。
わたしたち一人ひとりの関わりが、瀬戸を動かす力になる。

土と火、釉薬や技術が合わさり、思いがけない景色を生むやきもののように。
まだ見ぬ景色を描き続けていこう。
瀬戸の未来は、想像を超えていく。

瀬戸市は、１０００年以上にわたり、やきものづくりを通して、異なる素材や技術を取り入れ、掛け合わせながら、新しい価値を生み出してきました。
その挑戦の積み重ねこそが、瀬戸らしさであり、未来へ受け継ぎたいまちの財産です。

わたしたちが２０４０年に目指すのは、多様な人や地域、文化、産業、技術が、自然に、あるいは新たな出会いや関わりをきっかけに混ざり合い、互いに影響し合うことで、新しい価値を生み出す「化学変化」が当たり前に起きている状態です。

違いを受け入れ、互いの強みを持ち寄り、掛け合わせる。そこから生まれた新しい価値が、新たな人や想いを引き寄せ、次の出会いや挑戦へとつながっていく。
そうした「化学変化」がまちの至るところでめぐり続けることで、瀬戸の未来をつくっていきます。

イラスト

混ざり合うことで新たな価値を生み出す様子を表現。

２０４０年に向けたまちづくりの考え方

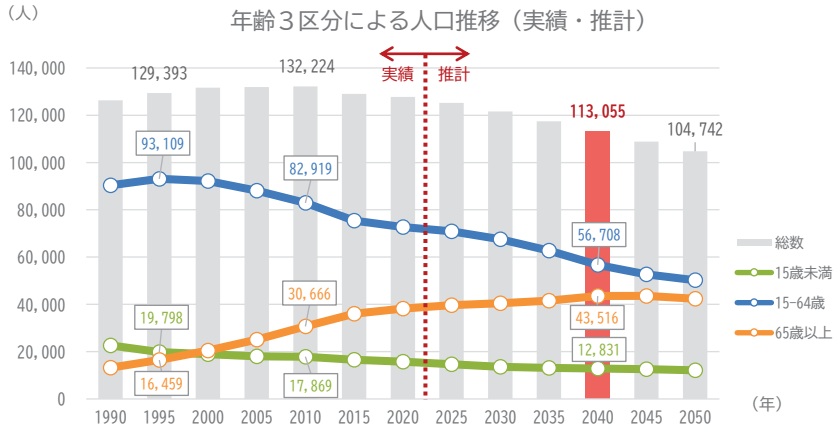
２０４０年は、人口減少や価値観の多様化などがさらに進み、社会構造や生活様式の変化が日々の暮らしに大きく現れ、これまでの「当たり前」が大きく変わる節目になると予測されています。

まちづくりにおいても、目の前の課題だけにとらわれることなく、こうした変化を見据えて、考え方や仕組みを問い直し、時代に合ったまちのあり方へと転換していく必要があります。

●２０４０年、人口が減る。まちづくりの前提が変わる。

瀬戸市の人口は、２０１０年をピークに減少が続いています。

２０４０年には、生産年齢人口（１５～６４歳）が総人口のおよそ半数となり、働く人、地域を支える人、行政サービスを担う人が少なくなり、まちを支える世代が減少することが見込まれます。こうした中、一人ひとりの役割はこれまで以上に重要になっていきます。



出所：国勢調査／瀬戸市推計

また、現在の人口減少は、転入・転出による人口の動きよりも、出生数が死亡数を下回っていることの影響が大きいため、転入を促し、転出を抑える取組だけでは、人口減少に対応することは難しくなっています。

全国的に人口減少が進む中、人口を増やすことだけにとらわれず、人口減少を前提として暮らしの質や地域の力を高め、持続可能なまちづくりへと転換していく必要があります。

●まちの仕組みを整える。

人口が減り、まちを支える人が少なくなる中で、これまでと同じ規模の仕組みやサービスを維持し続ければ、一人ひとりの負担は大きくなっていきます。

だからこそ、人口規模や暮らし方に合わせて施設の集約や機能の見直しなどを進め、まちの規模や仕組みを適切に組み替える「賢く縮む」まちづくりを進める必要があります。

単にまちを小さくするのではなく、限られた人や財源を効果的に活用して必要な機能やサービスを維持し、そこから生まれる余白を新たな価値や可能性につなげていきます。

公共建築物の老朽化
築40年を経過した公共建築物
全体の約48.7%
出所：瀬戸市公共施設白書
▼
規模を適正化する
（イラスト）
人口や利用状況に合わせて、
面積や機能を適正な規模へ

インフラ資産の維持・更新
今後40年間の更新費
年平均約39億円
出所：瀬戸市公共施設白書
▼
効率よく維持する
（イラスト）
必要性に応じ、
計画的・効率的に維持・更新

暮らしを支えるサービスの必要性
介護サービス総給付費
約102億円→約122億円
（2025年度）　（2040年度）
出所：瀬戸市高齢者総合計画
▼
続けられる仕組みにする
（イラスト）
限られた人材・財源でも
必要なサービスを維持する仕組みへ

●まちのかたちを整える。

まちの仕組みとあわせて、土地の使い方も、将来の暮らしやまちの姿を見据えて計画的に整えていく必要があります。

これまで受け継がれてきた歴史や文化、豊かな自然環境を大切にしながら、鉄道や高速道路などの交通利便性を活かし、鉄道駅などの拠点を中心に、暮らしに必要な機能や住まいが適切にまとまるまちづくりを進めることで、人が集まり交流する拠点と、誰もが安全・安心で快適に暮らせる住環境を形成し、将来にわたって持続可能な土地利用を目指します。

●変化を力にしてきた、１０００年。

瀬戸市は、時代に応じて新しい技術を取り入れ、挑戦と改革を重ねながら新しい価値を生み出し、１０００年以上にわたってやきもののまちとして発展してきました。

やきもの産業から派生したものづくりの気風は、幅広い製造業へと受け継がれ、現在の産業基盤を支えています。また、ツクリテが身近にいる暮らしや、やきものが日常に溶け込む文化にもつながり、瀬戸らしさの礎となっています。

時代の変化を受け入れ、挑戦を重ねて新しい価値を生み出してきた歩みは、瀬戸のアイデンティティであり、未来へつなぐ強みです。

●これからの社会に、瀬戸の強みを。

２０４０年に向けて、価値観や暮らし方の多様化、新しい技術の浸透など、社会は大きく変化していきます。

瀬戸市には、１０００年以上にわたるやきものの歴史やものづくりの気風、豊かな自然、暮らしやすさ、多様な人を受け入れる風土など、さまざまな強みがあります。

２０４０年の社会は…

価値観や暮らし方がさらに多様になり、さまざまな背景を持つ人が共に暮らす社会になる

人生１００年時代が進み、学びや働き方を選び直しながら活躍する機会が広がる

瀬戸の強み

外の人を受け入れる雰囲気　異文化交流の素地　人がやさしい

ユニークな学び･育ちの場　チャレンジする精神　クリエイティブな気風

イラスト

瀬戸市が目指す方向

一人ひとりの違いを認め合い、それぞれが自分らしく力を発揮しながら、多様な人や価値観がつながり、新しい価値が生まれるまちへ

誰もが生涯にわたって学び、自ら考え、挑戦しながら、それぞれの経験や力を生かして活躍し続けられるまちへ

社会の変化を見据え、これまで培ってきた瀬戸のさまざまな強みを活かしながら、変化を新しい価値や可能性につなげていきます。

そして、そこから生まれた価値が次の出会いや挑戦へとつながり、さらに新しい価値を生み出していくまちを目指します。

地域を支える人が少なくなる中、地域との関わり方や支え方が多様になる

AI・デジタル技術が日常のさまざまな場面に浸透し、人々の暮らしや社会のあり方が変わる

暮らしやすさ　生活利便性　ゆとりある暮らし　豊かな自然

やきもの 1000 年の歴史　昔ながらのまちなみ　ツクリテの身近さ

イラスト

瀬戸らしい魅力や地域資源を活かしながら、人や地域、活動がつながり、それぞれの関わりから新たな行動が生まれるまちへ

新しい技術を人や地域、産業、瀬戸のさまざまな強みと掛け合わせ、新しい価値や可能性を生み出すまちへ

将来像の実現に必要な４つの要素（施策の大綱）

将来像を実現するためには、瀬戸らしい強みを活かしながら、多様な主体が互いに影響し合い、新たな価値を生み出し続ける土台を築いていくことが重要です。

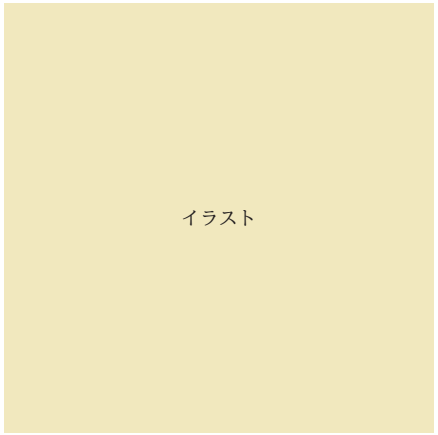
瀬戸のアイデンティティであるやきものづくりになぞらえ、将来像の実現に必要な４つの要素を定めました。それぞれの要素がつながり合い、高め合うことで化学変化を起こし続け、不確実な社会に対応できる持続可能なまちづくりを目指します。

瀬戸らしいダイバーシティを実現する【釉薬】

瀬戸では、高齢者や外国人、障害のある人はもちろん、ツクリテややきもの作家、アーティスト、起業家など、多様な人たちがそれぞれの個性や価値観を活かしながら、まちの魅力を磨いてきました。

年齢や国籍、働き方、暮らし方や住む場所などの違いを超え、多様な人や価値観が自然に共存し、互いを尊重し合いながら活躍できる「瀬戸らしいダイバーシティ」の実現を目指します。

釉薬が土や火と出会うことで新たな色彩や表情が生まれるように、多様な人や価値観が出会い、結びつくことから、新たな発想や価値が生まれ、化学変化をともに起こす仲間を増やしていきます。



挑戦が育つ学びをつくる【火】



瀬戸には、やきもの文化とともに培われたものづくりの精神を背景に、挑戦する気風や、自ら考え行動する力が育まれてきました。

多様な学びや学び直しの機会を充実させるとともに、ものづくりや地域との関わりを通じた探究を深め、地域資源を価値化し、まちへ循環させる視点や思考を育むことを目指します。

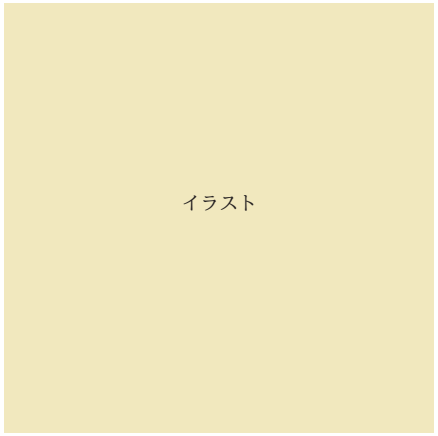
焼き上げる火が器に新たな価値を与えるように、一人ひとりの挑戦への想いに火を灯し、失敗を許容しながら挑戦を後押しする文化を育むことで、挑戦することが「瀬戸の当たり前」となり、まちに新たな活力と好循環を生み出します。

行動を生み出す環境をつなぐ【土】

瀬戸は、１０００年続くやきもの文化や豊かな自然、暮らしやすさと利便性など、多彩な地域資源に恵まれたまちです。こうした「瀬戸ならでは」の魅力が、人を惹きつけ、新たな行動を生み出す土壌となっています。

それぞれの地域資源やまちの魅力をつなぎ、磨き上げるだけでなく、地域の課題にも新たな行動や価値を生み出す可能性を見出すことで、誰もが自然と行動を起こしたくなる環境を育むことを目指します。

土が器をかたちづくるように、人や地域、活動をつなぐ環境を築くことで、多様な行動が自然と芽吹き、新たな価値を生み出す瀬戸らしい土壌を未来へつないでいきます。



変化を促すテクノロジーと融合する【技術】



瀬戸では、やきもの文化の中で培われた技術を時代に合わせて進化させながら、新たな価値を生み出し、まちの発展につなげてきました。

まちづくりにデジタル技術やデータを徹底的に活用するとともに、民間企業や大学などとの連携を深め、人や地域、産業などとの新たなつながりや組み合わせを生み出すことで、変化を力に変えるまちを目指します。

技術によって、土・釉薬・火がもつそれぞれの特性・魅力が融合し、一つの器として完成するように、テクノロジーと瀬戸の強みを融合することで、新たな価値の創出へとつなげていきます。